

## ☆医療的ケア児を見守る、福祉と医療連携の仕組み

記事 NHK ハートネット 2018年03月30日

<http://www.nhk.or.jp/heart-net/article/15/>

> 今、医療技術の進歩によって命が助かり、たんの吸引など「医療的ケア」を受けながら生活する子どもが増えています。2014年度時点の数は、8年前の1.5倍。しかし、実態はあまり知られておらず、支援も十分ではありません。そうした中、2016年に国は初めて、障害者の生活を支える「障害者総合支援法」の見直し案の中に、医療的ケア児の対応策を盛り込みました。従来の福祉制度に当てはまらない医療的ケア児。子どもたちの実情と、支援のあり方を考えます。

\*この記事はハートネットTV 2016年4月5日(火)放送「シリーズ 変わる障害者福祉 第1回

“医療的ケア児”見過ごされた子どもたち」を基に作成しました。情報は放送時点でのものです。

…などと伝えています。

△医療的ケア：テーマ別情報・窓口 NHK ハートネット

<http://www.nhk.or.jp/heart-net/topics/15/>

>>\*医療的ケアに関するこれまでの放送 なども紹介されています

## ☆ケア児も預かる保育園開園

読売新聞 滋賀 2018年04月02日

<http://www.yomiuri.co.jp/local/shiga/news/20180401-OYTNT50143.html>

\*看護師が常駐、安全に配慮 2日に開園、オリーブ守山保育園

中日新聞 滋賀 2018年4月1日

<http://www.chunichi.co.jp/article/shiga/20180401/CK2018040102000051.html>

> 訪問看護事業を手掛ける「びわこナーシング」(草津市)は四月二日、病児・病後児保育施設を併設した認可外保育施設「オリーブ守山保育園」を守山市守山六に開く。三十一日に内覧会があった。

ゼロ～五歳児を受け入れ、同社と提携する企業の従業員の子や、地域の子を預かる。医療的ケアが必要な子も一緒に過ごせるよう、看護師が常駐する。

同社の角野めぐみ代表取締役(48)は「訪問看護が母体の強みを生かして、障害のある子と健常児が関わるきっかけをつくりたい」、長谷川久子園長(64)は「子どもの時から障害や他者との違いを理解することで、思いやりを育むことができる」と話す。

定員十九人で、園児若干名を募集中。事前に連絡すれば見学できる。

(問) 保育園＝077(514)1539

…などと伝えています。

△滋賀県にあるオリーブ守山保育園

<https://olive-moriyama.jp/>

## ☆医療的ケア児預け 働く 仕事場併設、母親を支援 古河で複合施設「ブルーノ」開所

茨城新聞 2018年4月2日

[http://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f\\_jun=15225933344220](http://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=15225933344220)

> たん吸引や胃ろうなど日常的な医療行為が必要な子ども(医療的ケア児)を預ける重症児デイサービスと、その母親らが働く場所を備えた複合施設「Burano(ブルーノ)」が1日、古河市小堤で開所した。

…などと伝えています。

・医療的ケア児預け 働く 仕事場併設、母親を支援

(茨城新聞クロスアイ) - Yahoo!ニュース 4/2

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180402-00000006-ibaraki-108>

> たん吸引や胃ろうなど日常的な医療行為が必要な子ども(医療的ケア児)を預ける重症児デイサービスと、その母親らが働く場所を備えた複合施設「Burano(ブルーノ)」が1日、古河市小堤で開所した。付きっきり看護に追われる母親に、子どもを預けながら仕事ができる場をつくることで、孤立しがちな母親らの社会参加を後押しするのが狙い。

専門家によると、医療的ケア児のデイサービスと仕事場の併設は珍しい。

ブルーノは元会社事務所を改修し、1階に看護師や保育士がいるデイサービス(定員5人)、2階に母親の仕事場を設けた。仕事場はケア児の母親以外にも働くことができ、地域の交流機能を持たせた。仕事はブルーノが受注し、主にデータ入力や記事校正などを請け負う。

ブルーノ代表の秋山未来(みく)さん(34)は長男の晴ちゃん(1)が生まれつき筋力が弱い難病。人工呼吸器やたん吸引のほか、チューブを通して胃に栄養剤を送る経管栄養が欠かせない。

同日、現地で開かれた開所式には約70人が参加。秋山さんはあいさつで「母親が自分らしく生きることを諦めず、子どもも穏やかに過ごせる拠点にしたい」と抱負を語った。

ブルーノのデイサービスは0~18歳が対象。母親ら仕事場の定員は8人。営業時間は午前9時半~午後5時までで日曜日が定休。

ブルーノ整備に当たり、日本財団が費用の約8割を助成し、立ち上げを支援した。

担当者は「障害の有無に関係なく、地域の母親に開けた場所になり得る」と評価した。

医療的ケア児や重症心身障害児は、預け先確保など家族の看護負担軽減が課題となっている。一般に母親が看護することが多いが、預け先も少なく、仕事を諦めざるを得ない。厚労省の調査では、仕事をしていない母親らは約7割に上り、このうち半数近くが就労を希望している。

医療的ケア児は、新生児の救命率向上で増加し、2015年度時点で、19歳以下で全国に約1万7千人と推計される。

…などと伝えています。

\*医療的ケア児：預け働く拠点 古河にデイサービスと仕事場併設 孤立しがちな母親支援/茨城

毎日新聞 2018年4月5日 地方版

<https://mainichi.jp/articles/20180405/ddl/k08/040/130000c>

> たんの吸引など日常的に医療行為が必要な子ども(医療的ケア児)を預けながら、母親がデータ入力などの仕事を行う拠点施設「Burano(ブルーノ)」が古河市で開所した。看護負担を抱えて孤立しがちな母親が働くことを支援し、社会とつながる場を確保するのが狙い。

…などと伝えています。

△医療的ケアや重症心身障害児と母親のための複合施設「Burano」

<https://pre.burano.or.jp/>

## ☆水野久美子さん 重症児支援の基盤づくりへ デイサービス施設「すいんく」代表

茨城新聞 2018年4月5日

[http://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f\\_jun=15228396947080](http://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=15228396947080)

> 水野久美子さん(45)は重症心身障害児や医療的ケア児といった「重症児」を預かる多機能型重症児デイサービス施設「すいんく」を4月、看護師仲間の神栖市、田沼美登里さん(43)らとともに同市に開設した。「鹿行地域には専用の施設がなかった。重症児やその家族が安心して利用できる施設を目指したい」と力を込める。

看護師の姉が関わっていた障害児家族の支援に携わりたいと、昨年4月に障害児の放課後等デイサービス事業をスタート。そうした中「地域で重症児を受け入れてくれるところがない」。そんな利用者の声を聞くに及び、喀痰(かくたん)吸引等事業者として登録し、医療的ケア児を受け入れる体制を整えた。

だが、発達障害や知的障害の子どもたちの利用が増えていく中で「障害が異なる子どもたちを同時に受け入れることの危険やリスクの大きさ」が問題として立ち上がった。そのため、重症児に限ったデイサービスに取り組むことに方針転換した。

現在、看護師や保育士などスタッフは8人。「まだ途上だが、皆と協力し地域の重症児支援の基盤づくりをしていきたい」。神栖市大野原。

…などと伝えています。

△放課後等デイサービスすいんく・でい・ホーム

[https://www.facebook.com/%E6%94%BE%E8%AA%B2%E5%BE%8C%E7%AD%89%E3%83%87%E3%82%A4%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%93%E3%82%B9%E3%81%99%E3%81%84%E3%82%93%E3%81%8F%E3%81%A7%E3%81%84-653703434822940/?ref=page\\_internal](https://www.facebook.com/%E6%94%BE%E8%AA%B2%E5%BE%8C%E7%AD%89%E3%83%87%E3%82%A4%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%93%E3%82%B9%E3%81%99%E3%81%84%E3%82%93%E3%81%8F%E3%81%A7%E3%81%84-653703434822940/?ref=page_internal)

## ☆「夢のような事業所」開所 人工呼吸器装着の子受け入れ

神戸新聞 東播 2018/4/1

<https://www.kobe-np.co.jp/news/touban/201804/0011124546.shtml>

> 障害や病気で人工呼吸器を着けて生活している子どもらが通える、重度障害者通所事業所「さち」が兵庫県加古川市西神吉町宮前にオープンし、1日に開所式があった。手厚い医療的ケアが必要な子どもたちを受け入れられる施設は少なく、母親らが奔走して開設にこぎ着けた。施設内には特殊な入浴設備も備え、関係者は「夢のような事業所ができた」と喜び合った。

人工呼吸器を着ける子らは、頻繁な痰の吸引など細やかなケアが欠かせない。看護する家族の負担は大きい。緊急時などに預かってもらえる施設は近くになかったという。

…などと伝えています。

△早速のご支援ありがとうございます！

人工呼吸器を付けた子どもたちが安心して通える居場所を作りたい。

(浦野明美 (NPO 法人ささゆり会 副理事))

・クラウドファンディング Readyfor (レディーフォー)

<https://readyfor.jp/projects/sasayuri2018/announcements/66630>

△NPO 法人 ささゆり会 - ホーム F B ページ

<https://www.facebook.com/NPO%E6%B3%95%E4%BA%BA-%E3%81%95%E3%81%95%E3%82%86%E3%82%8A%E4%BC%9A-329156757560254/>

## ☆重度障害者に対応 デイサービス「こもれび」開所—伊東

伊豆新聞 伊東版 2018年04月02日

<http://izu-np.co.jp/ito/news/20180402iz000000006000c.html>

> 浴室に補助機器 いこいの里「福祉向上の一助に」社会福祉法人城ヶ崎いこいの里（竹安広峰理事長）は1日、伊東市富戸に重度心身障害者を受け入れることができる生活介護事業所「こもれび」を開所した。

市内にはこれまで、重度心身障害者に対応できるデイサービス施設が少なく、開所が待ち望まれていた。同法人の運営する特別養護老人ホーム「城ヶ崎いこいの園」の隣接地約3千平方メートルの敷地に、鉄骨造り平屋建て約500平方メートルの建物を新築した。総工費は約1億7700万円で、国と県の補助を受けた。館内には多目的ホール、作業指導室、浴室、医務室、調理室などがある。浴室には、重度障害者に対応できる機器を備えている。

…などと伝えています。

△社会福祉法人城ヶ崎いこいの里

<http://www.ikoinosato.jp/info/info.html>

## ▽小さな星の懸け橋に オリヒメがつなぐ

毎日新聞（鳥取）昨年12月から今年3月まで8回連載

<https://mainichi.jp/ch171295487i/%E5%B0%8F%E3%81%95%E3%81%AA%E6%98%9F%E3%81%AE%E6%87%B8%E3%81%91%E6%A9%8B%E3%81%AB>

## ▽がんばれ!!小さき生命（いのち）たちよ

[https://blogs.yahoo.co.jp/nicu\\_sp25](https://blogs.yahoo.co.jp/nicu_sp25)

> 新生児科 神奈川県立こども医療センターYahoo!ブログ

新生児医療・NICUで頑張る早産・低体重、様々な疾患の赤ちゃんのご家族を応援します。

[https://blogs.yahoo.co.jp/nicu\\_sp25](https://blogs.yahoo.co.jp/nicu_sp25)

## ▽YeLL[いえる] | 北海道小児等在宅医療連携拠点事業

<http://yell-hokkaido.net/>

> 小児等在宅医療連携拠点事業の理念・目的「YeLL（いえる）」は、「北海道小児等在宅医療連携拠点事業」の愛称です。

「yell」は英語で、「応援する」という意味。日本語の、「家」に似た響きを持つ言葉でもあります。

日常的に高度な医療行為が必要なために、病院で生活している子どもたちがいます。

でも、医療的ケアを自宅で受けられる体制と、ご家族を支える環境さえ整えば、その子どもたちも、自分の家で、家族と暮らすことを選択できます。

医療を必要とする人々が家で暮らすことを可能にするネットワークを北海道につくり、広げていく。

在宅医療の重要性をより多くの方に知ってもらいながら、多様な人々が一緒に暮らす社会づくりをすすめる。

「応援」してくれる仲間を、北海道にどんどん増やす。

それが、「YeLL」の活動の目的です。